



情報活用委員会

◆ 活動方針

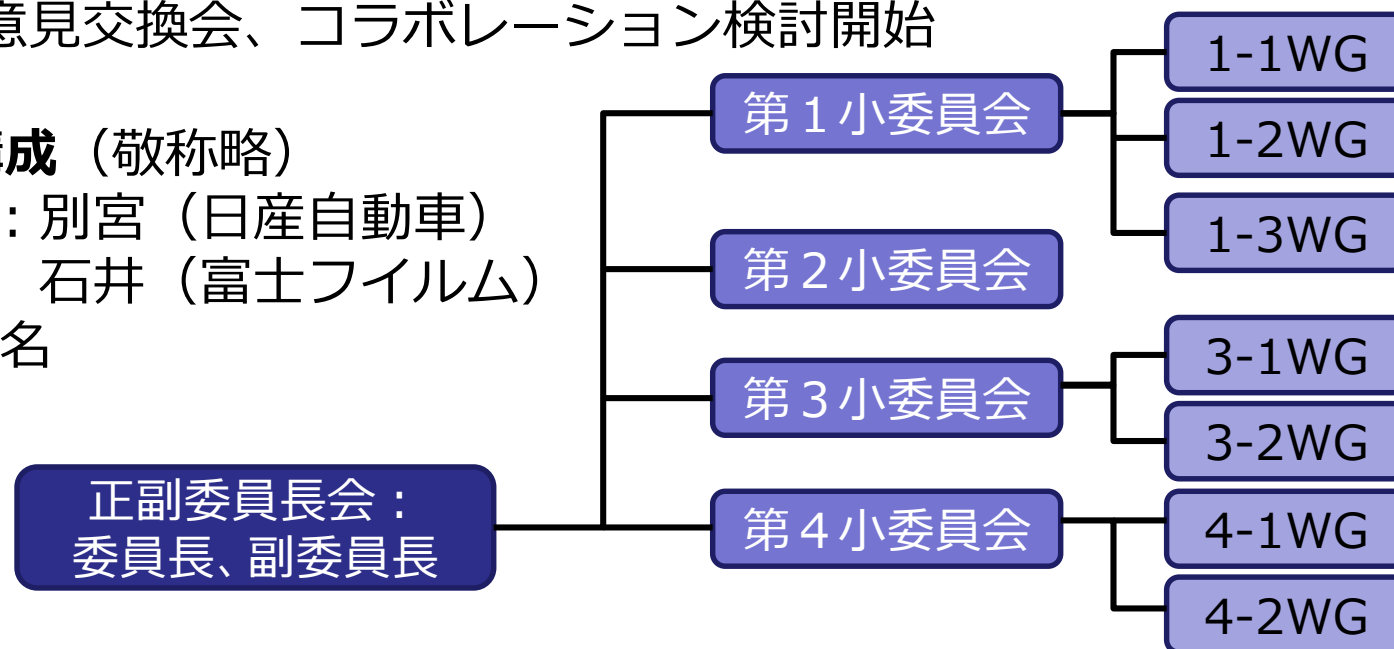
- ・ 企業の国際競争力強化のための情報調査力の向上
- ・ 多様化する情報に対する分析力の向上
- ・ 国内外の特許情報施策への提言

◆ 委員会活動

- ・ 4月より各月 正副委員長会議、WG単位での活動開始
- ・ 9月18日 中間報告会（全体会）開催
- ・ JPOとの意見交換会、コラボレーション検討開始

◆ 委員会構成（敬称略）

- ・ 担当理事：別宮（日産自動車）
- ・ 委員長：石井（富士フイルム）
- ・ 委員数63名





情報活用委員会 第1小委員会

◆ 第1小委員会 1-1WG

- WGリーダー:小委員長 金子 (富士通) 8名
- テーマ名: オープンイノベーションに資する知財活用に関する研究
- 狙い: 企業が抱えるオープンイノベーションにおける課題を、知的財産権を含む情報の検索・活用の観点から特定し、課題解決の一助となる情報を会員企業へ提供する。
- 内容の概略: 情報検索・活用の観点からオープンイノベーションに関わる実務上での課題の特定・解決策の検討。
- アウトプット及び対外活動予定: 2021年度知財管理誌投稿。

◆ 第1小委員会 1-2WG

- WGリーダー:小委員長補佐 伏見 (ダイセル) 6名
- テーマ名: SDGsのゴールに向けた知財情報の提供に関する研究
- 狙い: 特許・非特許情報の分析によりSDGs達成への貢献に対して課題解決するための手法、考え方などの情報を会員企業へ提供。
- 内容の概略: SDGs各ゴールのIPC分布および事例分析。
- アウトプット及び対外活動予定: 2021年度知財管理誌投稿、専門家との情報交換。



情報活用委員会 第1,第2小委員会

◆ 第1小委員会 1-3WG

- WGリーダー：小委員長補佐 森長（日本電気） 7名
- テーマ名：特許価値評価手法の検討。
- 狙い：実用性の高い特許価値評価の手法の検討
- 内容の概略：特許データベース搭載のスコアリングを用いて企業価値指標との相関分析および将来収益予測を行い、特許PF価値向上がもたらす経営的影響を考察する。
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。ベンダーとの意見交換については今後検討する。

◆ 第2小委員会

- WGリーダー：小委員長 青山（ポリプラスチックス） 10名
- テーマ名：AIの知財活用に関する研究
- 狙い：AI,RPA等による調査・分析の効率化手法の探索。
- 内容の概略：対象として技術動向将来予測や新市場探索を想定しAI等を活用した簡便かつ高確度の分析手法を立案するとともに、実践に向けたツールの探索とその活用法の検討を行う。
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。必要に応じベンダーとの意見交換による情報収集。



情報活用委員会 第3小委員会

◆ 第3小委員会 3-1WG

- WGリーダー：小委員長 吉武（ダイヘン） 10名
- テーマ名：IPランドスケープに関する研究～報告資料に使える分析・データの体系化～
- 狙い：IPランドスケープに使える分析・データの体系化
- 内容の概略：IPランドスケープで用いる分析手法やデータを目的ごとに整理し、これからIPランドスケープに取り組む際の参考となる情報を提供する。
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。

◆ 第3小委員会 3-2WG

- WGリーダー：小委員長補佐 二木（サントリー） 7名
- テーマ名：IPランドスケープに関する研究～産学官連携の推進を目的とした知財情報活用に関する調査研究～
- 狙い：産学官連携の推進に寄与する情報活用方法の提供
- 内容の概略：産学官連携の現状課題を明らかにし、新たな連携先の探索における知財情報の活用方法について提言を行う
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。



情報活用委員会 第4小委員会

◆ 第4小委員会 4-1WG

- WGリーダー：小委員長 高橋 (リコー) 6名
- テーマ名：知財情報活用のためのデータサイエンス手法の研究
- 狙い：最近のデータサイエンス手法の理解と実践
- 内容の概略：データサイエンスの基本と最近の手法を中心に全体像を把握し、知財情報を活用した手法を研究する。
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。有識者ヒアリングについては今後検討。

◆ 第4小委員会 4-2WG

- WGリーダー：小委員長補佐 堀井 (日立化成) 8名
- テーマ名：調査DB・分析ツール等の現状分析と環境整備
- 狙い：知りたいこと、それに役立つマップ類とツールの体系化。
- 内容の概略：ニーズ－アウトプット－ツールの関係を俯瞰し、ニーズ(知りたいこと)起点の情報取得メニューを構築する。
- アウトプット及び対外活動予定：2021年度知財管理誌投稿。ベンダーヒアリングについては今後検討。